

タイトル 海辺の別荘 野間の改構

タイプ 持家一戸建

設計 ナノメートル アーキテクチャー

施工 平田建築 (株)

構造 RC造、一部木造

講評

海辺の別荘なのに、防砂対策のため倉庫を設けたことでせっかくの眺望が失われていた。内装も和風洋風が入り混じって統一感が薄かった。そこで倉庫の外壁をポリカーボネートに変えて眺望を取り戻し、内装もシンプル化した。厚化粧を落した素顔はとても美しい。

リフォーム前後の写真



風と砂を防ぐ環境装置



砂と海風を防ぐために物置小屋はあらゆる部材を継ぎ縫って塞いでいる。隙間に隙間が見られる。この外構を整え、自然の猛威から守ることを試みた。

砂除室



ガスボンベや配管も潮の被害を受けている。これらを隠すことと室内への砂の侵入を防ぐために砂除室を設け対応した。

土間>居間>土居間



外部であったと想定されるが、室内化されていた居間にまた外部を取り入れた。壁を解体すると外壁と同様のタイル壁が現れた。土足のまま通り抜けられるアプローチとして、庭へと接続する。

眺望と潮の結晶



海への視界は砂避けを理由に閉ざされていた外壁のALC版を解体し、フロストのポリカーボネート波板に貼り替え視界と空間を広げた。フロストタイプは潮の結晶が汚れに見えない効果がある。

一本の線を引く



雑多な印象の2Fリビングは、落ち着いた黒基調の和室、明るく白基調でリゾートを感じる洋室で切り替え、空間の広がりや相反する要素の調和を試みた。



海側から倉庫越しに建物を見る



土間への出入口



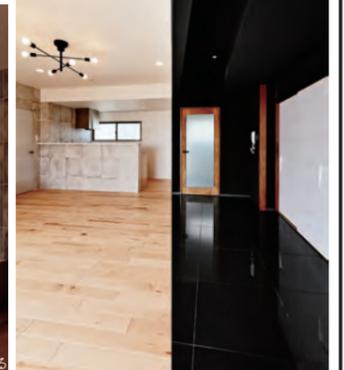
1階のアプローチから奥の庭を見る



庭に立ち海側を見る



2階リビングから海を見る



リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想・満足度/住宅の価値を向上させた内容など

防砂と改構
「なぜこうしなかったのか」そう思わせるのが、この海辺の別荘の改修である。愛知県知多郡美浜町は知多半島の先端近くに位置し、計画地は海が眼前に迫る最高のロケーションだ。敷地の両隣を見渡しても建物は遠い。なぜなら条例の変更により建築不可地域へと書き換えられたからだ。建替はできず、必然的に改修となった。強い海風は塩害の他に多量の砂を運んでくる。アルミサッシの隙間からも砂が入り、窓辺には砂が積もる。庭への砂対策のため海側に建つ倉庫は、既存建物との離隔によりその隙間から砂が吹き込む。その場しのぎの継ぎで対策が繰り返され、結果海への眺望は失われた。問題は2階にもある。以前の住人により装飾と仕上げを施した和風洋風入り交じる内装で、海を楽しむ前にその装飾が目立つ。要望は砂を今以上に防ぐこと、海への眺望を獲得すること、庭と居間が一体で使える場所とすること、2階は落ち着いた場所とすること、の4点だった。

既存図は存在しないが、調査を進めると1階居間は壁の下から外壁と同じタイルが覗いていた。つまり居間ももともと屋外のピロティとして使用されていたことが予想された。建築当初は庭へと連続したピロティを抜け、倉庫のない庭から海への眺望は素晴らしかったらう。今回の改修において、建築当初の良さを取り戻しつつ、問題を解決しながら、先へ進めることが望ましい。ポリカーボネート波板で外壁・窓・倉庫を囲ったのは風除室ならぬ砂除室で、眺望を獲得してなお、防砂の機能を強化する二重外壁の役割を果たす環境装置である。これにより居間は庭への通り抜け土間へと戻り、半屋内空間となった。2階は、黒いラインを挿入し和洋の空間を二分した。どちらも通りを引き込むことで整理した。
先人の敷地との格闘の履歴から読み解き、「本来こうあるべきではないか」と思わせる構えが現れた。建築も勝手も構えを改める「改構」と呼び手法を編み出した作品である。

性能向上の特性
・既存外壁の外側に砂風から建物を守るための砂除空間をポリカ波板で設け、砂の進入、建物の耐久性を高めた

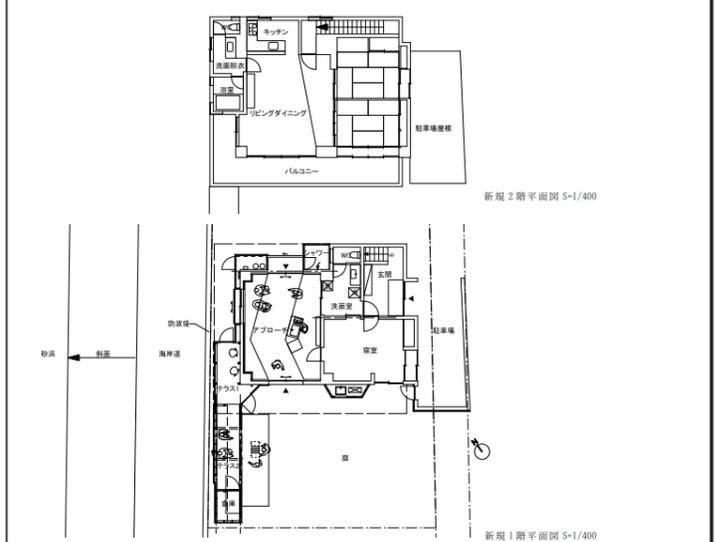
特に配慮した事項
・ポリカ波板を用いて海への眺望の獲得、砂と潮風の対策を行った
・1階の土間アプローチを庭へと連続させ、土足のまま通り抜け可能として使い勝手を改めた

所在地	愛知県知多郡美浜町	新築竣工年	不明	築後年数	不明	施工期間	90 日間
該当工事床面積	70㎡	総工事床面積	70㎡	該当部分工事費	700万円	総工事費	700万円
居住者構成	65歳以上:0人 / 15~64歳:2人 / 15歳未満:0人 / ペット:1						

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



リフォーム部位: ■居室/ ■台所/ □浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ □階段/ ■玄関/ ■イカテリア/ □ロケーション共用部分/ ■その他